

農作業安全研修
2023年2月14日

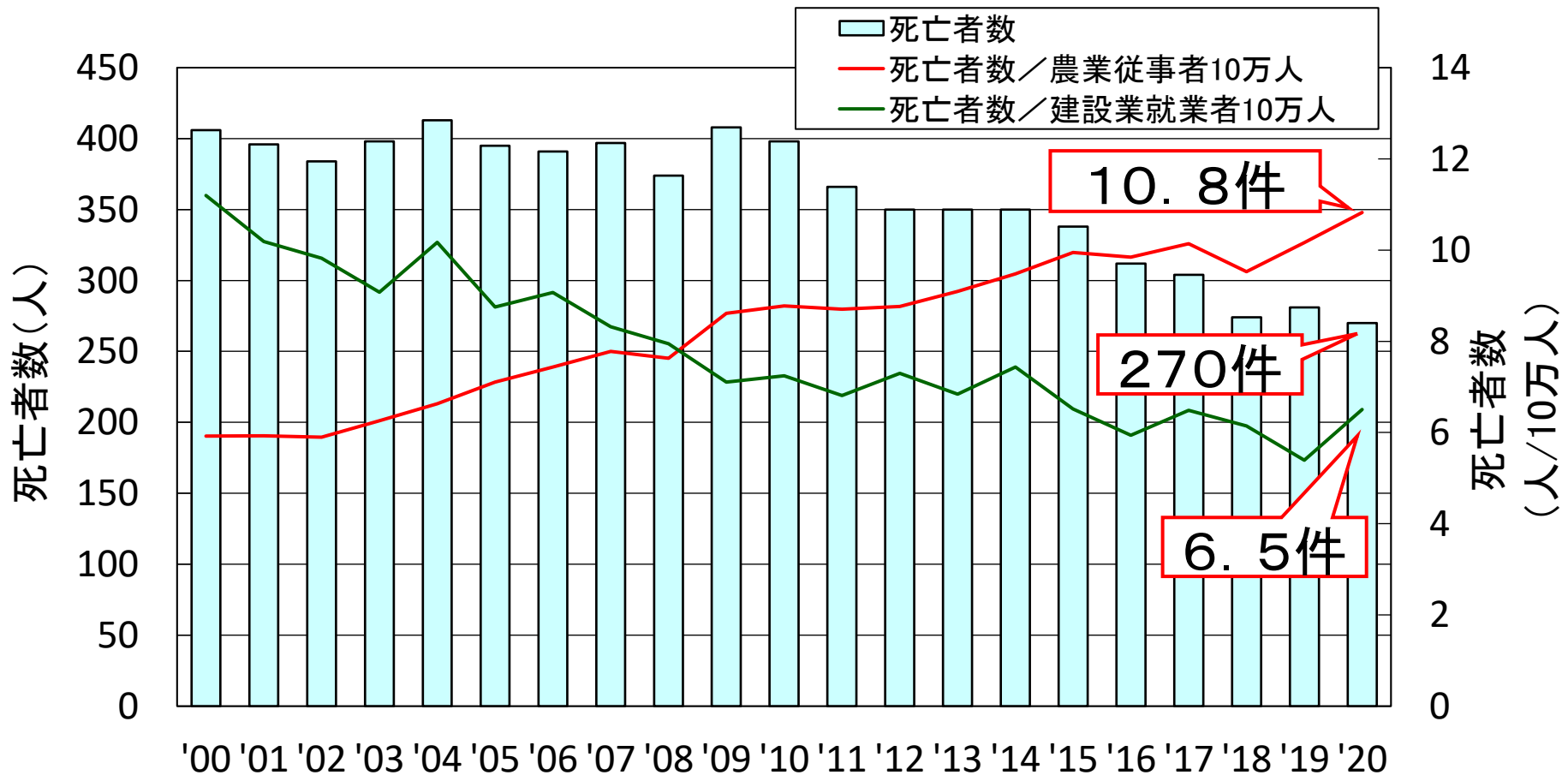
安全な農作業のためにできること

農研機構 農業機械研究部門
機械化連携推進部
志藤博克

NARO

農作業事故の統計

農業者10万人あたり死亡事故件数、建設業の1.7倍、全産業平均の9倍 → 誰の身に起きても不思議ではない状況



※農林水産省の農作業死亡事故調査報告、「農林業センサス」、「農業構造動態調査」に基づき作成

なぜ、事故が減らないのか？

農業（家族経営）は原則、労働安全衛生関連法令の適用外
従業員であり経営者 → 安全確保は自己責任



- 事故報告義務がない

国の調査は死亡事故のみ、人口動態調査から集計

→ 事故の詳細が不明、負傷事故は全国調査がない

- 的を射た対策が困難

事故の実態がわからないので、机上での想定になりがち

- 法令・規則に基づいた安全対策への助言を得にくい
安全意識が高まりにくい

- 農業分野での安全対策が未確立

他産業では、4SやKYTなど様々な取り組みが確立

農作業でよく見る光景

- トラクタ等に乗るとき、ヘルメットをかぶらなくても大丈夫
- 刈払機を使うとき、少しの間ならゴーグルやフェイスガードを付けなくても大丈夫
- 子供や孫が喜ぶのでトラクタに乗せて走ってあげる
- 脚立を使っているとき、手が届かない場合は天盤に乗って作業する
- 高い所の枝を切るため、ハシゴに上って作業する

「普通」のことでしょうか？

本当は危険なことです

「気をつけてやれば大丈夫、事故なんて
そうそう起こるものじゃないから」

「いちいち気にしていたら、仕事にならない」

農作業事故が引き起こすもの

Aさん(当時50歳代)

露地野菜中心、作業受託も増やしつつあり、地域の担い手として囑望
トラクタのPTOを切らず、駐車ブレーキをかけずに降りて、トラクタの
後ろで作業していたところ、後退してきたトラクタのロータリに巻き込ま
れ、右脚全体を複雑骨折、神経断裂等、車椅子生活を余儀なくされた



生命保険しか加入しておらず、
出荷価格の急落とも重なり、子
息の学費捻出にも困窮



離農
地域の担い手
を喪失

心身だけでなく、経営・地域へも深刻な影響が...



農作業事故は、最大の経営リスクのひとつ

「いつもと変わらない作業だったのに、まさかこんなことになるとは思わなかった。こういう目に遭うのは自分が最後であって欲しい⁴」

農作業事故は防げる

しかし・・・

人は不吉なことには向き合いたくないもの

「安全は儲けにならないし、安全にかける時間も金もない」



「今まで大丈夫だったから、これからも大丈夫、のはず」

安全は取り組む価値のないことでしょうか？

経営リスク

- ・自然災害
- ・資材費等の高騰
- ・生産物価格の下落、等

} 防げない

・農作業事故 → 防げる！

むしろ積極的に取り組むべきでは？

具体的な安全対策をどうするか？

それじゃ、「注意喚起」だ、「安全教育」だ、「手順書」だ
「危ない場所では気をつけよう！」



- 注意しているつもりでも、人は必ずミスをします
- わかっているつもりでも、違う手順でやってしまうことがあります
- 危ないとわかっているつもりでも、気をつけてやれば大丈夫と思ってしまう



「気をつける」だけでは事故は防げません

人はミスをする生き物です

では、どうしたらよいのでしょうか？

事故を防ぐためには

「事故は人のミスで起こる」と思われがちですが…
必ずと言っていいほど、他の要因も重なっています！

事故の要因の種類

機械や器具に関わること

事故現場の環境に関わること

人に関わること

安全対策の有無・適否に関わること

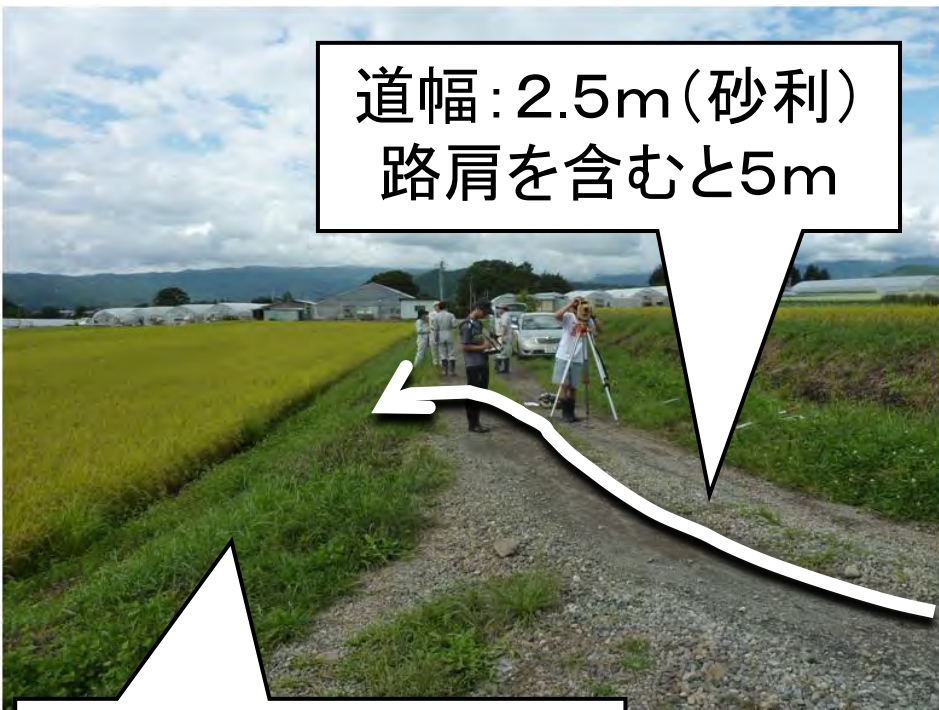


人に関する要因以外の要因を潰せば、
人がミスをしてでも被害を小さく抑えることができます
その上でミスを減らす努力をしましょう

安全フレーム付きトラクタの事故事例

農道から脱輪して田植え直後の水田へ転落転倒し、トラクタの下敷きになった

60歳代男性、溺死



傾斜30° 高さ約1m



転倒したトラクタ

事故の要因

機械の要因

- ・安全フレームが付いていたが、倒したままだった (発生前)

環境の要因

- ・傾斜30°、高低差約1mの法面があり、ガードレールがなかった
- ・路肩が見えやすく、当該トラクタには十分な道幅だった
- ・交通量は少なく、見通しも良い農道だった

(いずれも発生前)

人の要因

- ・何らかの原因で農道から脱輪してしまった(よそ見?)

(発生時)

安全管理の適否

- ・安全フレームの意味が理解されていなかった (発生前)

発生前からあった要因が多い

要因から導き出された対策

機 械

- ・安全フレームを立てて、シートベルトを締めていれば助かったはず

環 境

- ・一見、何の危険もないように見慣れた風景でも、トラクタが転倒するには十分な危険が潜んでいることに気づく(気づいてもらう)必要
- ・路肩に等間隔に竿などを立てる

人

- ・低速でも死亡事故は起きる、よそ見や「ながら運転」は厳禁

安全管理

- ・安全キャブ・フレーム、シートベルトの効果の啓発の重点化

転落転倒事故から身を守るために

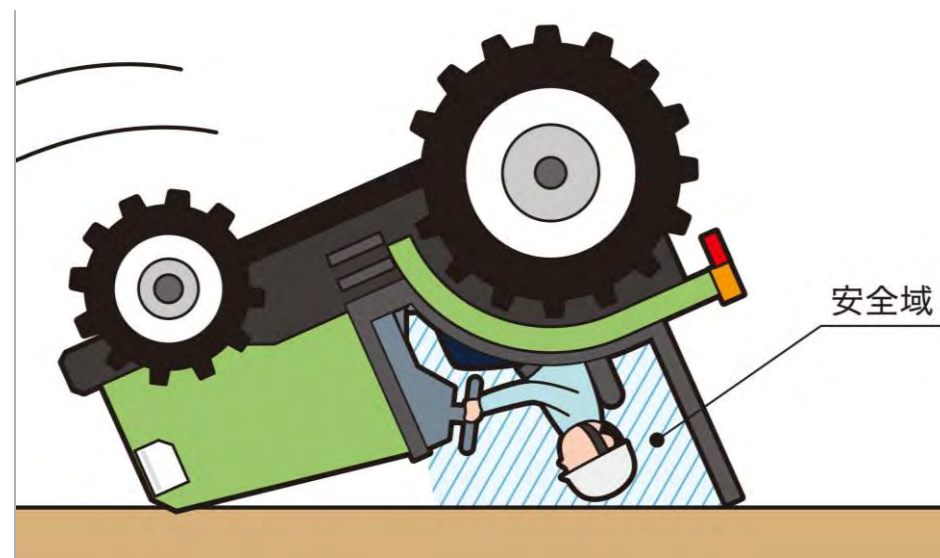
転落転倒事故に備えるためには、安全キャブ・フレームが必須です

- 安全キャブ・フレームは転落・転倒時の**衝撃を吸収する**とともに、**安全な空間**を確保してくれます。

↶ 倒した安全フレームは必ず立ててから乗りましょう

- 安全な空間にとどまるためにはシートベルトの着用が必須です
- 万一に備えてヘルメットをかぶりましょう

身を守る最後の砦



機械作業の時はヘルメットをかぶりませんか？

「重くてイヤだ」という方へ

最近のヘルメットは意外と軽い

軽作業帽(鋭い角などから防ぐ)なら230g～
女性用で320g～、通常のものでも400g～



軽作業帽

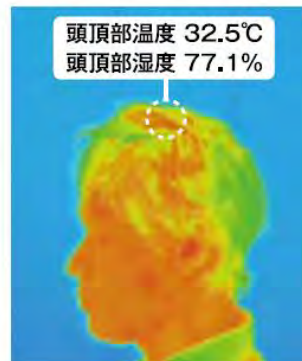
「ムレてイヤだ」という方へ

遮熱コーティングで
10° 低下

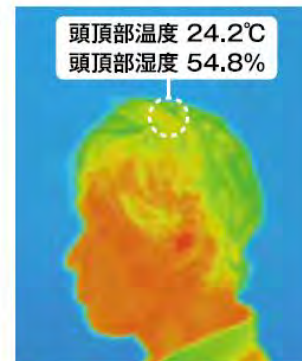
通気性UPで8～23°
低下



帽体色 W-1
D&L V-5



従来品



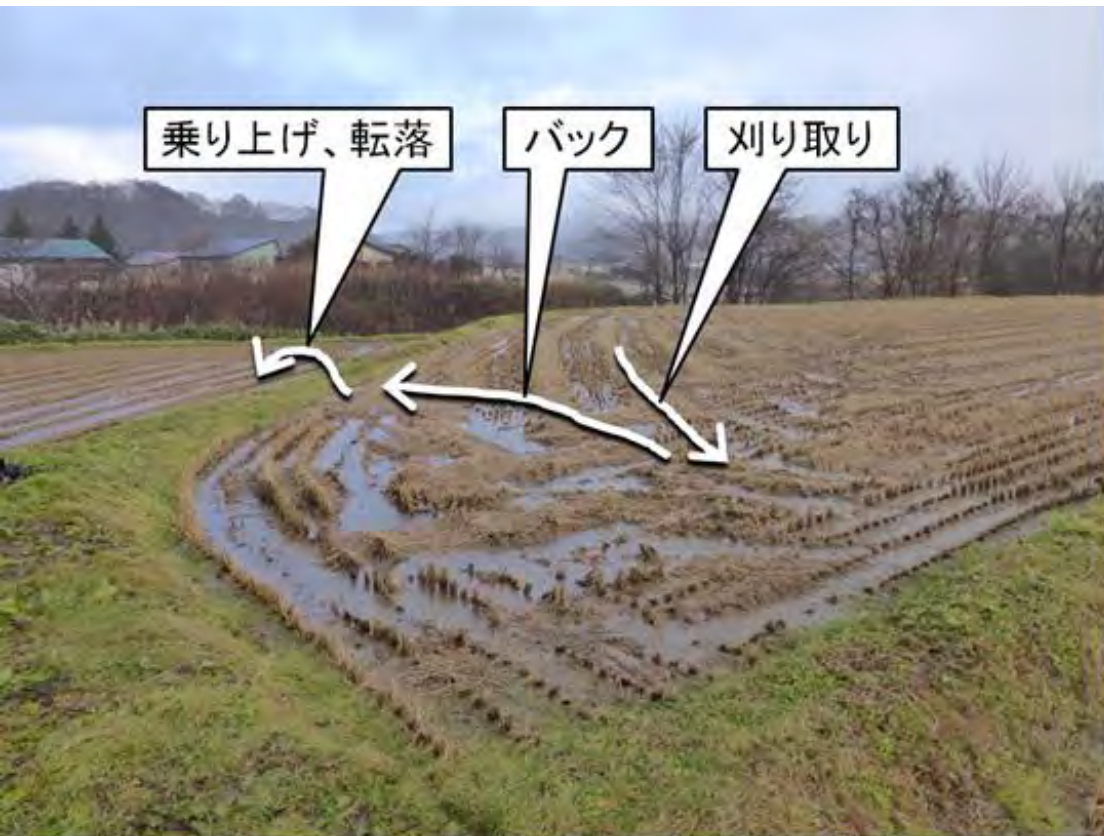
エアライト搭載品

ファン付き
単3電池3本で
8時間



自脱コンバインによる事故事例

台形ほ場の隅での回行時にバックしたところ、畦に乗り上げたので慌てて止まろうとしたが変速レバーを手前に引いてしまい、1.9m下の水田に仰向けに転落、籾排出オーガと地面の隙間に挟まれた（48歳、男性、肋骨骨折及び内臓圧迫）



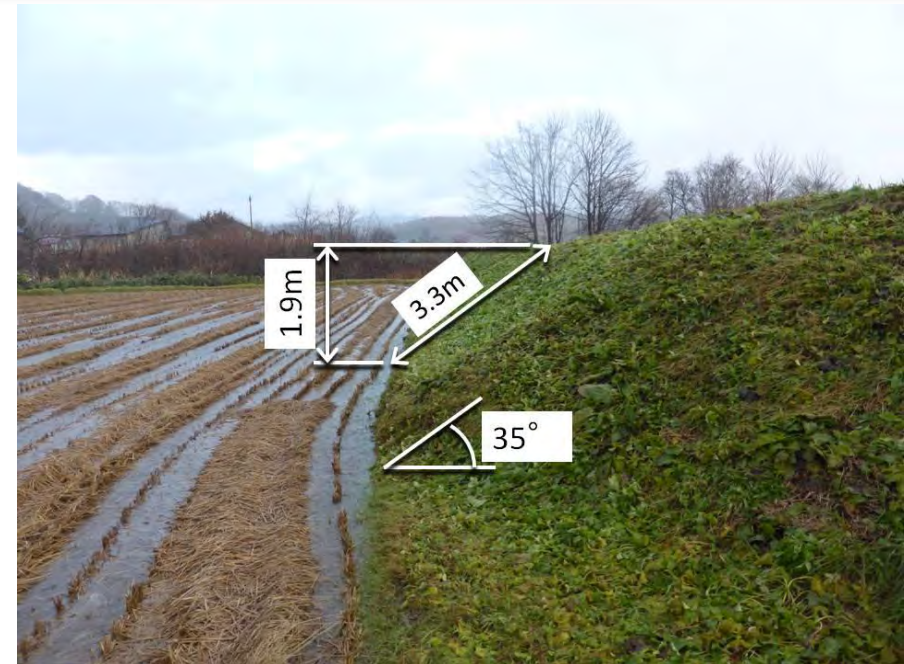
4条刈、グレンタンク式

事故の要因

環境の要因

- ・変形ほ場のため、回行操作がやりづらかった
- ・下の田んぼと1.9mの高低差があった
- ・乗り上げた畦は周囲よりも高さが低かった

(いずれも発生前)



機械の要因

- ・前進時とバック時では停止するためのレバーの操作方向が異なることが誤操作に繋がった可能性 (発生前)
- ・コンバインは後方の視界が悪い (発生前)
- ・仰向けに転落した際に、籾排出オーガとグレンタンクが支えとなって被災者を潰さずに済んだ (発生時)

事故の要因

人の要因

- ・それなりにスペースはあったが、次行程にすんなりと入ることを意識しすぎて、畦畔に寄りすぎてバックしてしまった
- ・バックするときに後方を確認していなかった

(いずれも発生時)

安全管理の適否

- ・変形ほ場での安全かつ効率的な作業方法の検討が不十分であり、周囲からもアドバイスが不足していた

(発生前)

要因から導かれた対策

機 械

- バックモニタを付ける

人

- 段差の近くで作業する際は、ぎりぎりまで近づかない
- 後進時の急停止操作を練習して慣れておく(ペダルを使う)

環 境

- 段差のある場所には、目立つテープを巻いた竿などを刺して目印にする
 - 土地改良事業を行う際は、ほ場間の高低差も検討する
 - 土地改良事業を行う際は、畦畔の天板の幅に余裕を持たせる
- ➡ 合筆による畦畔本数の削減によって耕作面積が増えた分の一部で畦畔の幅や法面の勾配に余裕を持たせる

歩行用トラクタの挟まれ事故

2本の樹木に挟まれた狭い部分を歩行用トラクタで耕うん中、後退時に背後の樹木との間に挟まれた
事故当日は、家族の帰宅が遅くなり、翌日になって被災者の不在に気付いて発見
73歳、男性、胸部圧迫による窒息、死亡



事故の要因

機械の要因

- ・挟まれ防止装置がない機械だった
- ・作業場所に対して機体が大きい (いずれも発生前)

環境の要因

- ・機械に対して作業場所が狭すぎた(発生前)
- ・作業場所の両端に樹木があった (発生前)

人の要因

- ・慣れにより危険を認識していなかった(発生前)
- ・とっさに停止操作ができなかった (発生時)

安全管理の適否

- ・作業場所と機械のバランスについて未検討、周囲からの助言もなかった
- ・作業場所等を家族に周知する習慣がなかった (いずれも発生前)



要因から導かれた対策

機 械

- 挟まれ防止装置付きの機械を使う
- 作業現場の広さに適した大きさの機械を使う

人

- 障害物や作業に潜む危険に気付けるようになる必要

環 境

- 作業の障害になる物は撤去することが望ましい

安全管理

- 一人で作業するときは家族にどこで、いつからいつまで、何をするかを知らせるルールを守る
- 地域やグループで危険予知トレーニングを行う

キックバックによる事故事例

水田の進入路付近の草刈りを刈払機で行っていたとき、刈刃が土盛り
りに接触してキックバックし、左足を切った

左足小指関節粉碎骨折と切創、入院24日

57歳、男性



事故の要因

機械の要因

- ・背負い式はハンドル操作が軽い反面、キックバックの反動が大きい
- ・飛散物防護カバーが外されていた (いずれも発生前)

環境の要因

- ・風が強く、寒い日だった
- ・作業の支障となる土盛りが存在した (いずれも発生前)

人の要因

- ・正しい作業法を知らなかった (発生前)
- ・安全靴を履いていなかった (発生前)
- ・寒さで頭がぼうっとしており、判断力が鈍っていた (発生時)

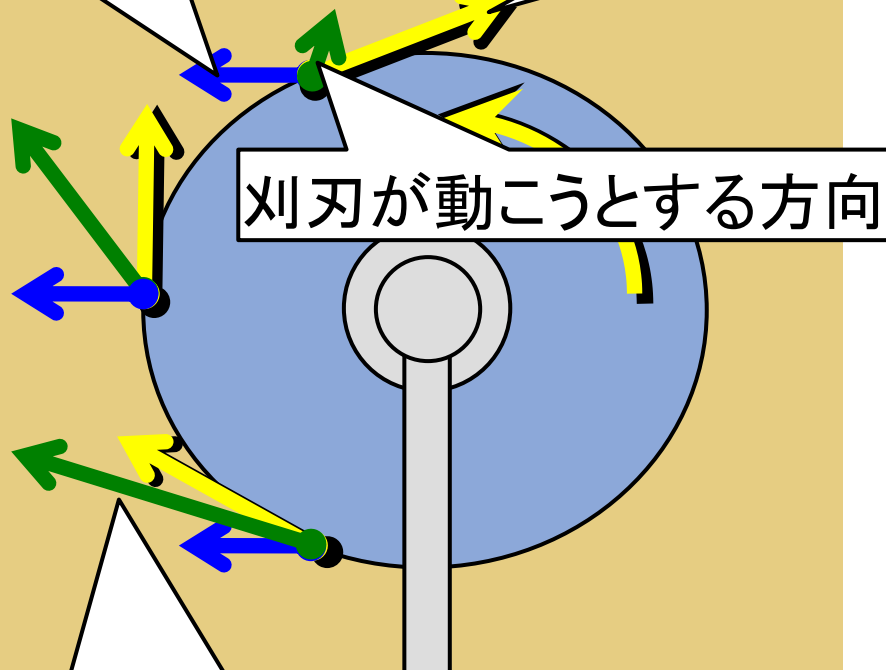
安全管理の適否

- ・安全な作業についての知識がなく、周囲からの周知もなかった
- ・危険源が撤去されていなかった (いずれも発生前)

キックバックの原理

刈刃を左方向へ動かすとき

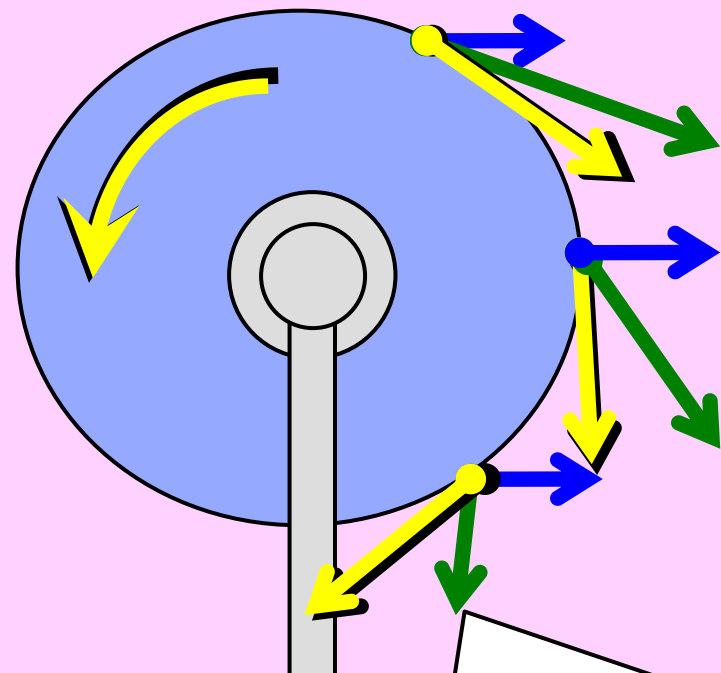
刈刃を振る力の方向 反発力の方向



刈刃が動こうとする方向

刈刃は自分の方へは
飛んでこない

刈刃を右方向へ動かすとき



刈刃は自分の方へ飛んでくる
背負い式は特に注意！

飛散物による事故事例

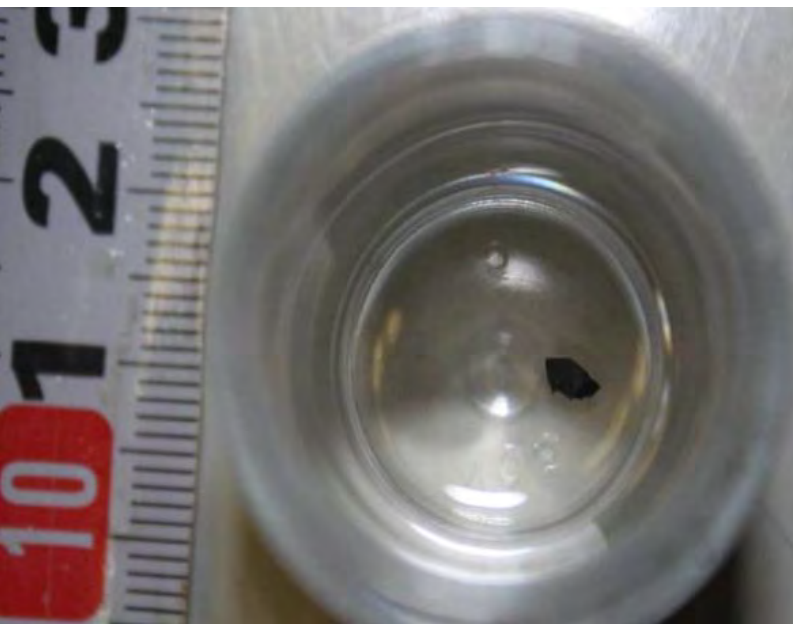
短時間と思い、ゴーグルをせずに道端の草を刈っていたとき刈刃のチップが欠け、右眼に飛び込んだ

57歳女性、入院3週間、半年後に失明



飛散物防護カバーがない！

事故の要因



機械の要因

- ・飛散物防護カバーが外されていた
 - ・安価な刈刃(2枚で1000円)だった
 - ・チップが欠けた刃を使っていた
- (いずれも発生前)

環境の要因

- ・石が多い道ばたでの作業だった
- (発生前)

安全管理の適否

- ・安全装備の装着不徹底
 - ・周囲からの周知不足
- (いずれも発生前)

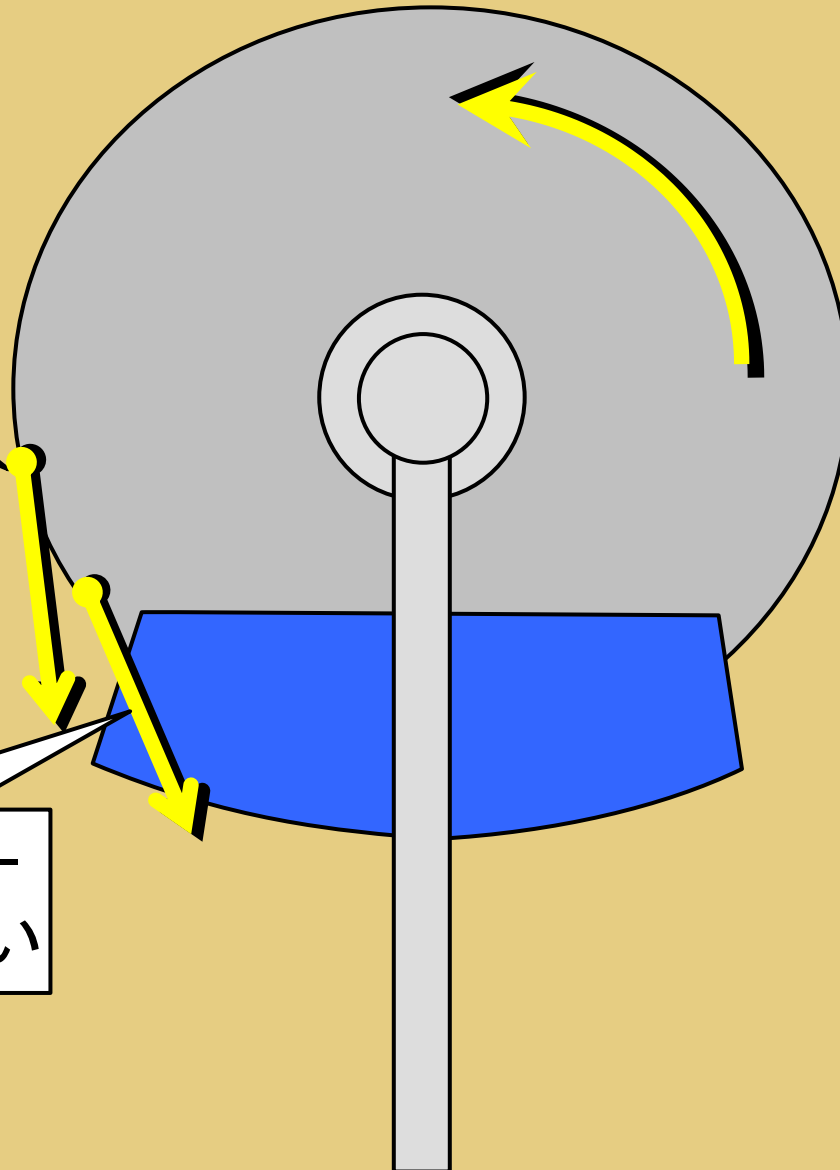
人の要因

- ・正しい作業方法を知らなかった
 - ・短時間と思い、ゴーグルを未装着
- (いつもは装着) (発生時)

飛散物が飛んでくる方向

自分に向かって
飛んでくる

飛散物防護カバー
に草が詰まりやすい



安全な刈取り位置

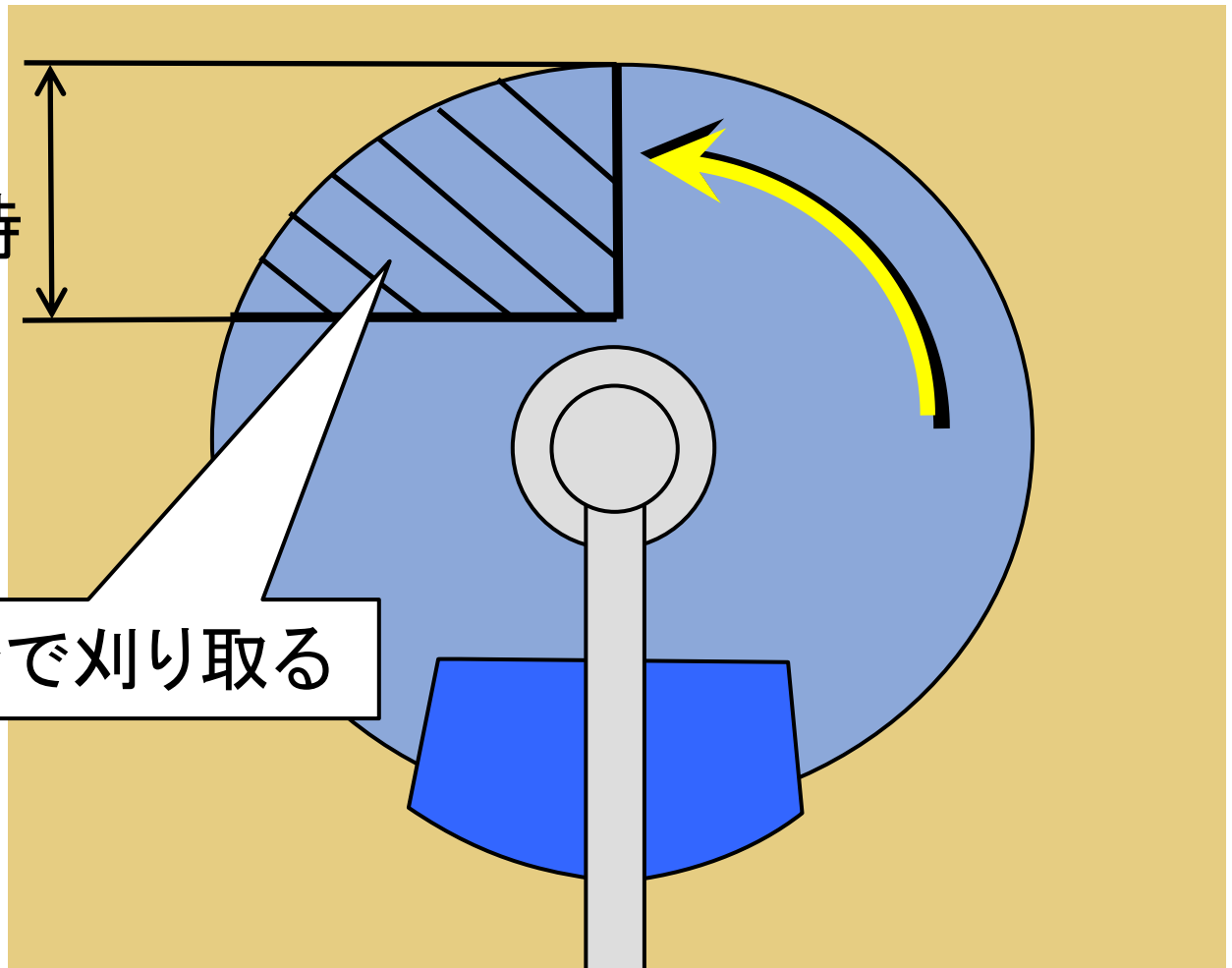
- ・自分に向かってキックバックしない
- ・自分に向かって飛散物が飛んでこない
- ・飛散物防護カバーに草が詰まりにくい



そのためには・・・

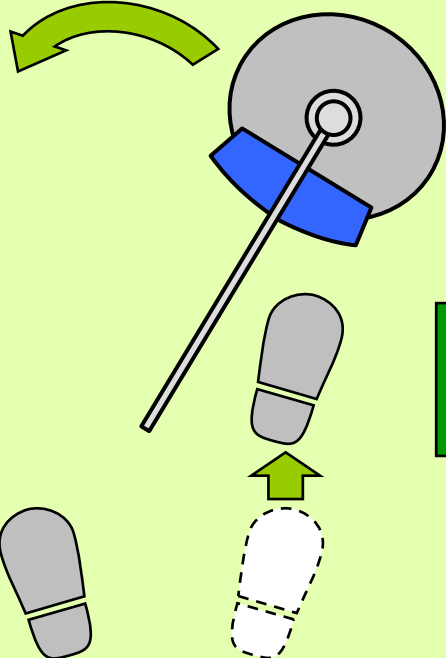
上部1/3
時計の10～12時

この部分で刈り取る



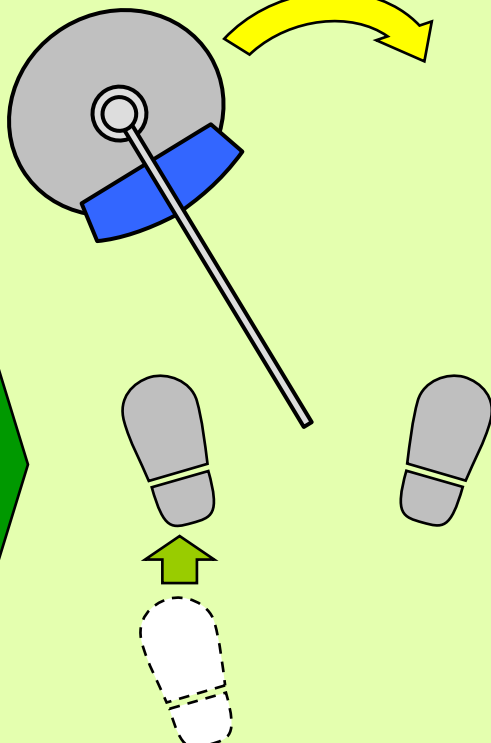
安全な刈り方

刈る



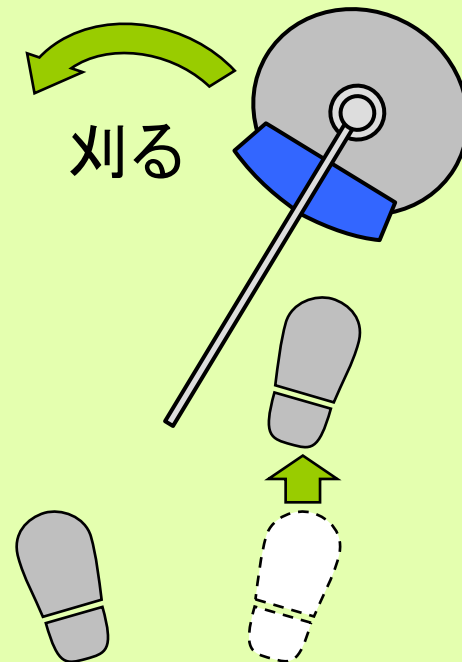
右足を一步踏み込んで、左へ刈り始める

刈らない



左足を右足の隣まで動かして刈刃を元の位置へ

刈る



右足を踏み込んで、左へ刈り始める

この繰り返し常に右足が先行

安全な使い方と「いつもの」使い方の比較

安全な使い方と「いつもの」使い方各10分、作業したみたら・・・



刈り払った面積はほとんど変わらなかった

いつもの使い方：1～2回は草が絡まり、復旧作業のロスが大

安全な使い方：作業を止めることなく順調 → ウサギとカメの競争

安全な使い方には別のメリットも

- 負荷変動が少なく、エンジン回転が安定

→ 燃費が抑えられる

- 白煙が出ないので不純物がたまらず、エンジンのかかりが良い

→ 長持ちする



経済的にもお得

「いつもの」使い方のデメリット

負荷変動が大きい「いつもの」使い方を続けると・・・



エンジン内部に不純物が蓄積



- 燃費が悪化
- エンジンの掛かりが悪くなる
- 常に高回転していないとエンストする



刈払機の寿命が短くなる上に
思わぬ事故を引き起こす原因に

刈刃との接触による事故事例

道路に面した畦畔の草刈り作業中、空き缶などを拾うため、作業を中断し、エンジンを切らずに道路の縁石に刈払機を置いたところ、エンジンの振動で刈払機が縁石から落ち、回転する刈刃が左脚を切りつけた

左足首付近の切創、通院2週間、松葉杖10日間

飛散物防護カバーがない



刈刃との接触による事故事例

機械の要因

- ・エンジンが高速回転でかかったままだった
- ・飛散物防護カバーが外されていた

(いずれも発生前)

環境の要因

- ・振動が吸収されにくい舗装道路の上だった

(発生前)

人の要因

- ・エンジンのかかりが悪いため、切らずに地面に置いた
- ・草が詰まるため、飛散物防護カバーを外していた
- ・正しい刈り方を知らなかった

(発生時)

(発生前)

(発生前)

安全管理の適否

- ・安全な作業についての知識がなく、周囲からの周知もなかった
- ・普段からの不安全な使い方により、エンジンがかかりにくく、スロットルを開いていないとエンストする状態だった

(いずれも発生前)

これら以外の刈払機の事故

- 法面での作業中、足を滑らせて水路に転落し、足を骨折
- 背丈の高い葦の上の部分で刈っている時に、姿勢を崩して転倒、刈刃で切創
 - ➡ ヘッジトリマーを使いましょう
- 灌木を刈っていたところキックバックし、左脚を切創
 - ➡ ヘッジトリマーまたはチェーンソーを使いましょう
- 大きなエンジン音のため、休憩を呼びに来てくれた人が背後にいることに気付かず、驚いて振り向いた拍子に刈刃で切りつけてしまった
- キックバックが起きて、刈払機が大きく振られた際に、すぐ後ろにいた共同作業者を切りつけてしまった



用途に合わせて刈刃を使い分けましょう

チップソー



- 小石等の飛散物は比較的少ない(チップは飛んでくる可能性)
- 切れ味が良いので、エンジンをそれほど高回転にしなくてよいので、燃費が良い
- キックバックが発生する恐れがあるので、障害物の近くでの使用は避ける

ナイロンコード



- キックバックが起こりにくいので、障害物の近くでも使える
- 小石や刈った草の飛散が多い
- 切れ味よりもコードの速度で刈るため、草量が多いときは、エンジンを高回転で使うので燃料消費量が多い

安全性が担保された刈払機を使いましょう

農研機構の安全性検査に合格した刈払機をお勧めします

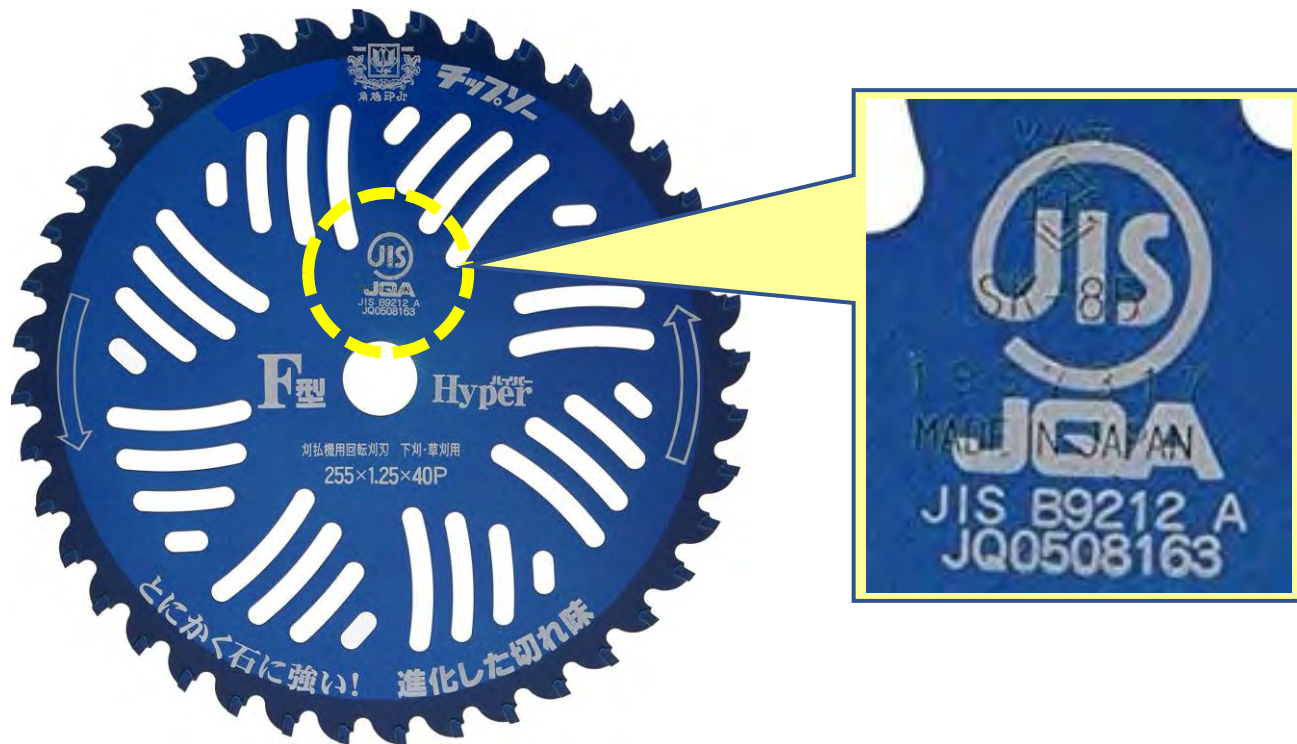
- 刈刃の停止時間、トリガー式スロットルレバー等の要件を満たしています
- フル回転で鉄棒に刈刃を当ててもチップが飛ばない強度が保障されています



品質の良いチップソーを使いましょう

「**JIS B9212**」と書いてある刈刃をお勧めします

- 日本工業規格(JIS)で定められた要件を満たしています
 - ・回転ブレが少ないように真円度を測定しています
 - ・チップに100kgの力を加えても壊れない強度が保障されています



脚立からの転落事故事例

高さ2.5mの脚立の天板に乗って、プルーンを収穫していたところ、
バランスを崩して転落



右足アキレス腱断裂、入院20日、通院9カ月（調査時点で通院中）

46歳、男性

事故の要因



たかが転落と言うなかれ！
意外と重傷

機械・用具の要因

- ・天板が大きく乗りやすかった

環境の要因

- ・周囲に枝があり、危険意識をマヒさせた

人の要因

- ・天板乗駕禁止を知らなかった
- ・ヘルメットの未着用

安全管理の適否

- ・安全ルールの不徹底
- ・周囲からの周知不足

要因から導かれた対策

- 被災者は事故後に天板上の作業をやめ、届かない枝を切った
- ヘルメットを着用する(1mは一命取る)
- 枝を切りたくなかったら、天板上の作業が可能な「可搬式作業台」を利用する



労働安全衛生管理の考え方

ステップ1

作業現場の危険源を取り除く = 事故発生の根本原因をなくす

ステップ2

取り除けない危険源と人を隔てる = 柵を設ける、目印を付ける等

ステップ3

安全な行動を遵守する

← こちらから最初に取り組むのではない

安全教育、手順書、注意喚起

事故防止

家族経営では、仲間同士や地域との繋がりで取り組む必要

ステップ1 危険源の排除

- 農機の見直し

更新時に安全装置を装備しているもの、安全性が高いものを選ぶ

例) 中古でも安全キャブ・フレーム付きのトラクタを選ぶ

- 作業環境の改善

作業環境に潜んでいる危険を洗い出して改善しましょう

段差・凹凸	➡	平らに
狭い・細い	➡	広く
暗い	➡	明るく
雑然・散乱	➡	整理整頓



しかし・・・
当たり前と思っていると
なかなか気付けません

どちらの方が危険な場所でしょうか？

A



B



どのような事故が起きているのかを知ることができれば、
どのような場所が危険かもわかるようになります

農作業安全の情報源

- 農業機械研究部門のサイト

「農作業安全情報センター」

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/>

- 農作業事故統計
- 事故事例検索
- 安全啓発の教材(対話型研修ツール、eラーニング等)
- 農業機械の安全装備いろいろ
- 安全研究の成果紹介
- 用語の説明
- 農作業安全関係のサイト集
- 安全コラム(毎月掲載)



農作業安全の情報源

農水省のサイト

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

● 事故事例を知る資料

● 研修会用の資料（ネタ）

パワポなので加工が自在



ステップ2 危険源と人の隔離

- 農機に関して

カバーを外したままにしない、壊れたら修理・交換する

農機の点検整備はエンジンを切ってから行う
安全装備の意味を理解し、適切な操作ができるようにする



- 作業環境に関して

危険な場所に近づけないよう、柵を設ける

修繕できない危険な箇所に緩衝材や目印を付ける



ステップ3 安全な作業の励行

以上の対策を立てた上で、安全な行動を励行しましょう

- 最初に洗い出した危険でステップ1と2で排除しきれなかったものに対して、どのようなルールが必要かを考えましょう

例)

- ・安全靴、ヘルメット、草刈り時のゴーグル等、身を守るための防具を使う
- ・動いている機械には近づかない
- ・機械等に巻き込まれる可能性がある作業を行う際は、手袋を着けない
- ・・・・等

ステップ3 安全な行動ができるようになるには



(例) 急いで作業中、コンバインにゴミが詰まったとき

A. エンジンを止めて取り除く

B. エンジンを止めずに取り除く

- 作業時間はどれだけ違うか？
- その差は一日の作業にどの程度影響するのか？
- 手が巻き込まれたら、どうなる？
- 事故の危険と引き替えにする価値があるのか？

グループ討議あるいは自問自答で深掘りして、理由を理解する



腑に落として自分のルールにする

=ルールだから**従う**のではなく、理解しているから**実践**する

ステップ3 安全な行動ができるようになるには

作業内容に適した服装・保護具を着用しましょう



高所作業
機械作業

○ ヘルメット着用

巻き込まれ
防止

○ 手ぬぐいは中に

○ シャツの裾をしまう、
袖口を留める

安全靴でも可

○ 安全長靴

正しい服装で作業しましょう

必要に応じて
手袋をする

巻き込まれる可能性が
ある場合は着用しない

私生活と仕事を切り替える上でも服装は大事です

新潟県A法人の取組み事例



作業員全員がヘルメットを
着用して作業を実施

安全靴も履いています

- 建設業経験者が提唱したが、最初は皆、嫌だった
- 農協職員のサポートもあり、次第に習慣化
- 機械の点検整備中に頭をぶつけ、効果を認識
- 今では作業時にヘルメットを被らないと不安
- ヘルメットを被ると仕事スイッチが入る
- 農業の常識は、他産業では非常識だと気がついた

危険に気付ける自分になる「KYトレーニング」

- 各自が問診票に記入し、グループ内で発表し合う
- 自分が気付かなかったことを他のメンバーの意見で気付ける
- 作業前のミーティングで実施する
- 想定される危険とその対応策を頭に入れて作業に臨める
 ➡ とっさのときでも適切な行動が取れるようになる

記入例（耕うん作業）

作業名	危険な作業は？	私たちはこうする
路上走行	右折時の後続車の追突	ミラーだけでなく、直接、後方を目視確認する
田からの退出	前輪浮き上がり転倒	ロータリを下げたてゆっくり退出
回行 ・位置合わせ	田の隅からの転落	ギリギリ隅まで作業しない

対策の優先順位を決める「リスクアセスメント」

ステップ1: 周囲に潜む危険を洗い出す

ステップ2: 危険がもたらす被害の大きさ(=ハザード)を見積もる

ステップ3: 危険が起こる頻度を見積もる



危険な場所ならば、その場所に行く頻度に置き換えてもよい

ステップ4: リスク(ハザード×頻度)を評価する

	軽微 (1点)	重大 (2点)	極めて重大 (3点)
ほとんど起こらない(5年に1回程度) (1点)	1点	2点	3点
たまに起こる(2年に1回程度) (2点)	2点	4点	6点
よく起こる(1年に1回程度) (3点)	3点	6点	9点

対策の優先順位を決める「リスクアセスメント」

ステップ5：点数の大きいものから対策を講じる



「労働安全衛生の考え方」のステップ1から順に

ステップ6：対策によるリスク低減効果を再評価する



ハード面の対策がなく、ソフト面だけの対策ではリスク低減効果はない



危険源がそのまま残っているため

基本中の基本「5S」

5Sとは・・・

整理：必要な物と不要な物を分別し、不要物を処分する

整頓：必要な物がすぐに取り出せるように置き場所や置き方を決め、わかりやすいように表示し、使ったら元に戻す

清掃：きれいに掃き清めながら、異常に気付く

清潔：きれいな状態を維持し、異常を発見しやすくする

躰：決められたことを決められたとおりに実行できるように習慣づける

「5Sは労働安全・収益向上の一丁目一番地」
とまで言われるのはなぜか？

整理・整頓の意味するところ

見て、すぐわかる

➡ ムダなく、ミスなく、余裕を持って行動できる



作業が効率化する



危険に気付ける



労働生産性が上がる



安全になる



収益が向上する



安全と収益向上は両立できます

あなたの5S、生きていますか？

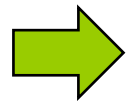
5Sの「その後のあるある」の一例

- 使った道具が元の場所に戻っていない／行方不明



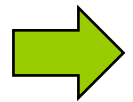
- ・保管場所と使う場所が離れていませんか？
- ・よく使うものを優先的に手の届きやすい場所に保管していますか？
- ・誰でもわかりやすいように表示していますか？

- 農薬散布用の防護服が埃まみれ



- 保管場所や保管方法は適切ですか？

- 清掃の回数がだんだん少なくなる



- 誰がいつ清掃するか、役割を明確にしていますか？

改善を繰り返しましょう

農作業安全の考え方(まとめ)

1. まず、事故の実態を知り、「自分ごと」としてとらえる

2. できることを考え、実践する

・機械、環境、人に潜む危険に気付き、全員で共有



・現場を改善する、作業のルールを作る

KYT、農場
ミーティング

リスクアセスメント、5S



・ルールを理解し、実践してみる



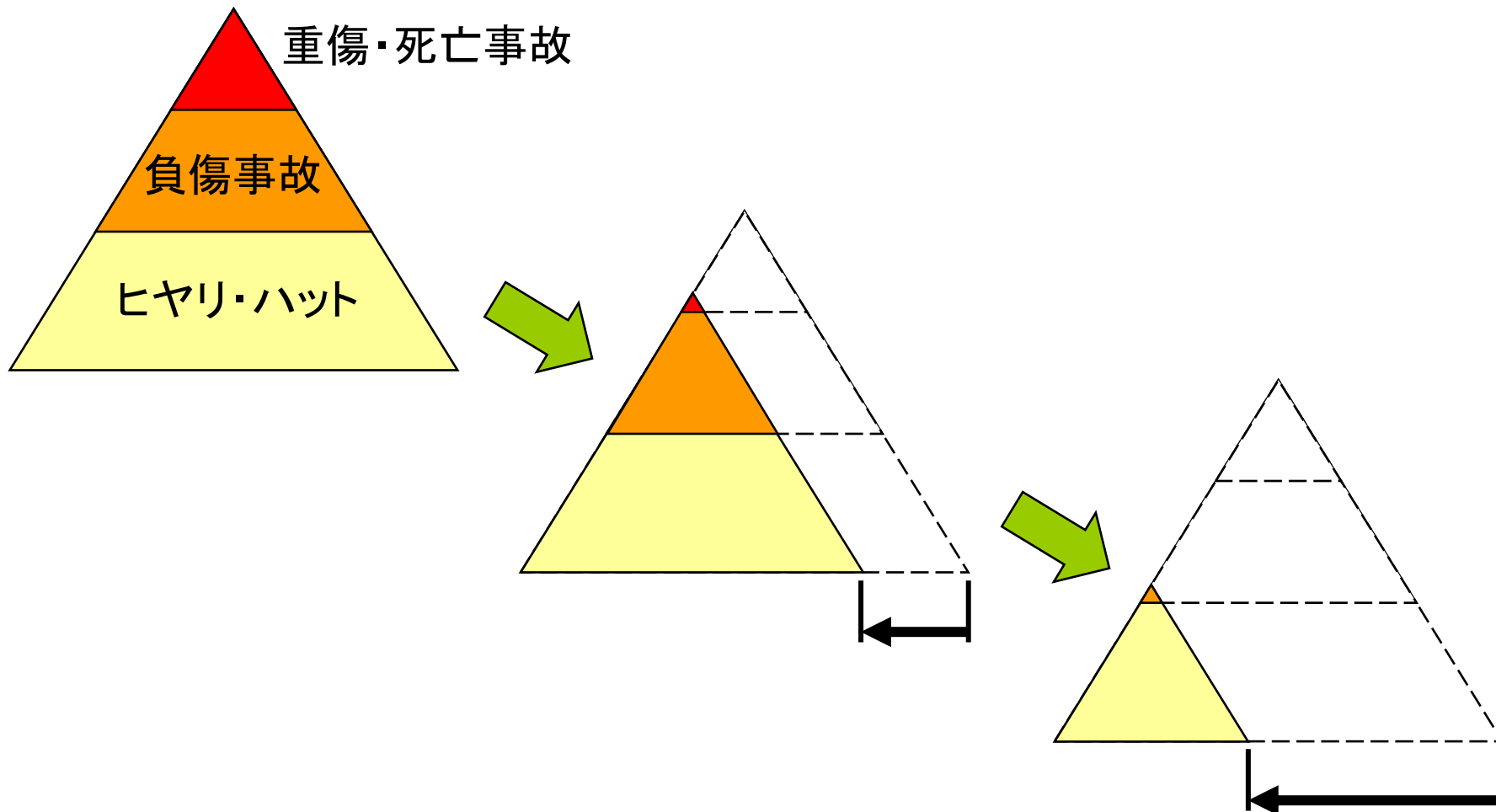
・不具合のある点やその後に起こったヒヤリハットを元に改善し、再度やってみる

これを営農が続く限り繰り返す(GAPと同じ考え方)

重要なところ、手を付けやすいところから徐々に広げましょう

リスク低減の考え方

ヒヤリ・ハットを「慣れ」で済まさず、なくしていけば
重大事故のリスクを低減できる



事故が起きてしまった時への備え

労災保険への加入

- 労使関係が成立すれば加入は必須
- 自営であっても特別加入できる制度がある
- 健康保険は、労働災害には使えないことがある
- 被雇用者4人以下の経営は加入義務がないが、被雇用者が被災した場合、**雇用者が補償する義務**がある



必要な療養費は、掛金に関係なく、金額が給付される



長期療養の場合は
傷病補償年金



後遺症が残ったら
障害補償給付



遺族補償給付もある

ケガや病気で休業すれば
休業補償給付があるよ

安全対策は高くない！

それでも、安全は儲けにならない、とおっしゃる方は多いですが・・・

安全対策に要した費用1 に対して・・・

経済効果は2.7倍



直接的効果

事故が発生した場合の損失を回避

副次的効果

労働生産性の向上

労働意欲・モラルの向上

業界や地域における企業イメージ・信用の向上

早退・遅刻・疾病罹患率の減少

中央労働災害防止協会、2003

安全は儲けにつながる！

GAPも長期的視野で見れば儲けに繋がる！